

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議まとめ（案）に対する意見

1 本編

頁	本文（前回の案）	意見	対応
2	はじめに 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（以下「市民会議」という。）は、平成29年2月から16回にわたって、武蔵野市エコプラザ（仮称）（以下「エコプラザ（仮称）」という。）のあり方について議論を重ねてきた。市民会議では、新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会における4期にわたる議論の成果である、「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」を基礎として、全市的な視点で議論を行ってきた。この「検討のまとめ」は、市民会議の議論の結果を取りまとめた。	「なぜエコプラザ（仮称）なのか」「なぜ必要なのか」を入れてエコプラザ（仮称）の導入を工夫した方が良いのではないか。	検討
		旧クリーンセンター跡地にあること、新クリーンセンターと一体であることを示す。	検討
		旧クリーンセンターの建物、プラットホームをなぜ残すのかを加える。	検討
3	1. エコプラザ（仮称）と「ごみ処理施設（都市計画決定）」 「武蔵野クリーンセンター」は昭和59（1984）年旧工場棟稼働以来、本市のごみ処理を担ってきた。平成29（2017）年4月に更なる技術進化による高度なごみ処理と廃熱エネルギー利用を実現した新工場棟が本稼働した。クリーンセンター敷地は「ごみ処理施設」として都市計画決定されており、このことは近隣住民の方々の理解を得て、市民生活に欠かせないごみ処理が担保されていることを意味する。そのため、新工場棟は安全・安心のごみ処理を担い、また見学者コースでごみ処理が見て学べる。そしてエコプラザ（仮称）（旧事務所棟と旧プラットホームを残置、改修）は「ごみ処理施設」の付帯施設として、市民一人一人がごみや環境のトピックを通じて、日常生活と環境問題との多様な接点やつながり・関係性などをより深く考え、学び、行動することにより、SDGsの実現を目指す高次な環境啓発施設として平成32年度中に開設を目指している。	【案】 （旧事務所棟と旧プラットホームを減築保全、リユース）	修正
		見出しにまでわざわざ（都市計画決定）を書く必要は無いのでは？ 「決定済み」を強調すると、特定の誰かに向けた特別な意図があるかのように感じられます。肅々と。	修正
		「そのため．．．」とありますが、その前の文が後の文の理由説明になっていない気がします。	修正
		・SDGs 17のゴール全部はエコプラザの直接的な守備範囲ではありません。 「つながっている」ところはあるにしても、環境関連だけで良いのでは？	修正
		・「高次な．．．」…偉そう。自分で言う？ 「ふつうの市民」との距離が遠くなる感。	修正
		・最後の文、「そして．．．付帯施設として」の前半とそれ以降、ただ文をつないでただけで関連、脈絡がなく、1文が長くなるだけ。	修正
		全体として、もう少し自然な流れの分かりやすい文章にならないでしょうか？ 【案】 「武蔵野クリーンセンター」は昭和59年（1984年）、丁寧な協議の積み重ねによって近隣住民の理解を得て稼働し、市内全域の市民生活に欠かせないゴミ処理機能を担い続けてきました。稼働から30年以上が経過した平成29年（2017年）4月には、最新鋭のゴミ処理技術と排熱を有効利用するしくみを備えた「新クリーンセンター」が本稼働しています。新クリーンセンター建物外観のデザインは周辺地域の景観を向上させ、整備された見学コースを訪れる市民には、「最も身近な環境問題」であるゴミ問題について「ワガコト」として考えてもらうきっかけを提供しています。 敷地全体を「ごみ処理施設」と定めている都市計画決定の趣旨に沿い、旧工場跡地や旧事務所等を有効活用して、市民一人一人が、家庭生活や地域の活動の中でゴミ問題だけでなく様々な環境問題との接点を発見し、気づき、考え行動することを促す機能を担う環境啓発施設＝エコプラザ（仮称）の開設準備を進めています。（平成32年開設予定）	修正
旧クリーンセンター跡地にあること、新クリーンセンターと一体であることを示す。	修正		

頁	本文（前回の案）	意見	対応
4	2. エコプラザ（仮称）の理念	構成を次のようにしてはどうか。 【エコプラザの基本理念】 【エコプラザが目指すもの】 (1) 低炭素モデルの実現 ←【基本的な方向性】から移動 (2) 地域力の向上 ←【基本的な方向性】から移動 (3) まちづくりとの連携 ←【基本的な方向性】から移動 (4) ゼロウェイスト ←【基礎にある考え方】から移動 【エコプラザの基礎にある考え方】 (1) リスペクト (2) 市民参加 (3) コレクティブインパクト (4) メタボリズム 【エコプラザの基本的な方向性】 (1) 低炭素モデルの実現 (2) 地域力の向上 (3) まちづくりとの連携 (4) 地域・生活との接点	検討
4	市民会議では「エコプラザ（仮称）の基本理念」、「エコプラザ（仮称）の目指すもの」、「エコプラザ（仮称）の基礎にある考え方」、「エコプラザ（仮称）の基本的な方向性」について、高度な議論を重ね、以下のとおり体系化した。＊詳細、用語の定義は「議論のあゆみ編」を参照	「高度な議論」…上から、偉そう、自分で言いたくない。「真剣な論議」 用語の定義…「あゆみ編」を参照しなくても読んで分かるようにすることが望ましい。本編単体で配付されることを想定。	修正 検討
4	【エコプラザ（仮称）の基本理念】	理念に関する言葉が似ている。目指すもの・基礎にある考え方・基本的な方向性どれが柱になるのかが分かりにくい。	検討
4	ア コンセプト 共創による未来に誇れる場づくり ～みんなで作ろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ～ <4つのキーワード> 「共」…すべての人、団体、事業者、行政が、共に参加する。 「創」…既にあるものにとらわれず、柔軟に新しい価値を創り出す。 「子ども・未来」…持続可能な環境を子どもたちの未来に引継いでいくため、大人が責任をもつ。	コンセプトの副題 「～みんなで作ろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ～」は必要か？？ 「ア コンセプト」 消し忘れ？ キーワードの文字数を揃えてバランスを取る。 「子ども・未来」←「希」ではどうか。	検討 修正 検討 検討
4	【エコプラザ（仮称）が目指すもの】	理念に関する言葉が似ている。目指すもの・基礎にある考え方・基本的な方向性どれが柱になるのかが分かりにくい。	検討
4	SDGs（持続可能な開発目標） SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された、誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする、17の国際目標である。 エコプラザ（仮称）では、これらSDGsの実現を念頭に置いて事業を実施する。例えば再生エネルギーの普及、省エネルギー化、地球温暖化対策、循環型社会の構築、生物多様性の保全等の分野の活動を通して、環境にやさしい魅力的な地域づくりを目指す。	SDGs＝国連で採択された「持続可能な開発目標」の17のゴールのうち環境に関する12項目を含め、環境分野全般を視野に入れて啓発事業を実施します。日々のくらしや地域での活動の中で環境問題との接点・つながりを知ることから始めて、地球温暖化をはじめとする様々な環境問題の本質を知り、行動変化へとつながるよう促していきます。 (1)低炭素モデルの実現 ←【基本的な方向性】から (2)地域力の向上 ← 同上 (3)まちづくりとの連携 ← 同上 (4)ゼロウェイスト ← 同上 →【基本的な方向性】はなくす	検討

頁	本文（前回の案）	意見	対応
		<p>（説明） ○「目指す」と見出しにありますが、原文では解決を目指す環境問題の分野が書いてあるだけ。 「誰一人．．．」「持続可能性」[多様性]「包摂性」．．「環境にやさしい魅力的な地域づくり」．．．抽象的すぎる気が。 「目指すもの」は、（これから）実現したいこと、達成目標が一定具体的に書かれている方が良いと思います。 ・【基本的な方向性】の(1)(2)(3)の方がより具体的で、「目指す」「目標」という言葉に合っている感。 ・「(4)生活・地域との接点」はエコプラザが目指すことのうち、全体に共通する基盤のレイヤーのように思われますので、1項目とするより見出しに続けた全体共通事項の説明文とした方が良いかと。 レイアウト的にも項目羅列より締まる感。 ・【基礎にある考え方】「(5)ゼロウェイスト」も「目指すもの」に入れられる内容かと。 ・市の『環境基本計画』の重点項目1：環境情報を分かりやすく提供、も入っているかも。</p> <p>SDGsに目標としての深さがあることを表現する。→つながり、学び合い、しなやかさ。</p>	<p>検討</p>
4	【エコプラザ（仮称）の基礎にある考え方】	<p>「重点志向」を項目として入れては？ ・環境問題は幅が非常に広いので、外部団体とコレクティブに連携するとしても、現実問題として武蔵野市やエコプラザに割り当てられる経営資源では全ての領域を十分にフォローしきれない可能性。 また、環境問題に限らず、行政がいったん始めたことは重要性が相対的に低下しても縮小しづらい風土。 → 時代の状況に応じて各分野ごとの重点度合、ウェイト付けを見直し、資源配分をしがらみなくダイナミックに変えていくこと、その必要性を書いておいては？ （一定の移行措置、ソフトな移行は必要として）メタボリズムと重なる？</p> <p>理念に関する言葉が似ている。目指すもの・基礎にある考え方・基本的な方向性どれが柱になるのかが分かりにくい。</p>	<p>検討</p>
4	(1) リスペクト エコプラザ（仮称）では、新旧クリーンセンター建設の歴史をはじめとする、これまでの武蔵野市における様々な環境に対する取り組みの歴史、議論とその成果、それに関わった人々の思い、さらに現在・将来の取り組みを共有していく。	<p>「リスペクト」という語に違和感がある。「伝承」「継続」など日本語で適当な語を考えたい。</p> <p>【案】 旧クリーンセンターの建設から新クリーンセンターの更新に至る経緯を詳らかに紹介し、</p> <p>【案】 現在・将来の取り組みを共有していく場とする。</p>	<p>修正</p> <p>修正</p> <p>修正</p>

頁	本文（前回の案）	意見	対応
4	(2) 市民参加 エコプラザ（仮称）では、創造的な成果が生まれるよう、市民（狭義の市民のみならず、在勤・在学する個人、NPO等の団体、民間事業者を含む）の参加によって事業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「実効性のある市民参加」が必要かと。 「合理的な意思決定」には前提として「事実の適切な認識」が必要。会議に市民が参加していれば良いというものではない。温暖化対策など専門知識が必要な分野では、参加する市民への最低限の基礎情報のINPUTが必要。 ・「市民が拡げる」まで含めた市民参加を想定していることも表現しては？ 市報で募集して来場して終わったら解散、市民は受け身...ではなく、次のステップにつないだり、次は知人を連れてきてもらうなど啓発活動に参加協力してもらうような仕掛けをすることなど。 	検討
4	(3) コレクティブインパクト エコプラザ（仮称）では、コレクティブインパクトの手法を生かして様々な主体の力を集め、「エコプラザ（仮称）の目指すもの」の実現を図る。	<p>【案】 エコプラザ（仮称）では、コレクティブインパクトの考え方を基に様々な主体の力を集め、「エコプラザ（仮称）の目指すもの」の実現を図る。</p>	修正
		<ul style="list-style-type: none"> ・説明文にコレクティブインパクトの本質的な概念の説明がないので、読んでも核心が伝わりません。 「あゆみ編」の用語集を見ることが前提だと「まとめ本編」単体で配付できない。下記のような説明はどうでしょうか？ 	検討
		<p>【案】 全ての環境分野の専門性や啓発ノウハウをエコプラザ内部で確保しようとするのではなく、専門性の高いNGOや公的機関、啓発企画力のあるNPO、情報伝達力のある事業者等と行政が連携し、それぞれの強みを結集する（コレクティブ）ことで1+1が3になるような大きな成果（インパクト）を実現し、環境問題の解決を効果的に進めます。</p> <p>武蔵野市も今後はコレクティブなスタンスでやっていく、という理解で良いでしょうか。</p>	意見
4	(4) メタボリズム（進化しながら磨く） エコプラザ（仮称）の活動では、メタボリズムの考え方を踏まえて、今を完成形とは考えず、時代の変化やニーズ、価値観の変化に合わせて人も施設も学び合い、常に育ち続けていく。	メタボリズムはわかりづらい言葉。進化する、内発的な力を育てる（development）などで言い換える。	修正
5	(5) ゼロウェイスト エコプラザ（仮称）の原点は、武蔵野市のごみ問題にある。この歴史を忘れず、武蔵野クリーンセンターと連携して、焼却や埋め立てなどによる資源の無駄遣いを抑えるとともに、そもそもごみを出さない社会の仕組みへの転換を目指して、地域、まちを変えていく。	<p>「ごみゼロ、ゼロウェイスト」の取扱いです。4月の「これまでの議論の振り返り」までは、目指すものとして、しっかり明記されておりました。一方、SDGsはどちらかと言えば、例示でした。</p> <p>ご調整があったとは思いますが、前者の方が、武蔵野市固有の問題として、また周辺協議会の議論を受け継ぐ意味でも市民から共感を得られやすいのではと考えています。逆に、SDGsはやや専門的であり、加えて、環境以外のテーマも多く、一般市民が直感的にイメージしがたいのでは、と少し不安に思います。</p> <p>どちらも重要なテーマであるため、議論の余地があれば、確認されてもよいのではと考えています。</p>	検討
		ゼロウェイストの説明が必要ではないか。	検討
		<p>【目指すこと】に移す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「焼却や埋め立てなどによる資源の無駄遣い」という表現は変。「焼却や埋め立て」は「資源の無駄遣い」の原因ではなく、結果、後始末方法なので... 	検討

頁	本文（前回の案）	意見	対応
		ごみ減量の意義をより強調する。	検討
5	【エコプラザ（仮称）の基本的な方向性】	【エコプラザの基本的な方向性】 ⇒ 【目指すもの】へ統合しては？ 理念に関する言葉が似ている。目指すもの・基礎にある考え方・基本的な方向性どれが柱になるのかが分かりにくい。	検討
5	(1) 低炭素モデルの実現 平成27年にフランス・パリで開催された国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で採択された「パリ協定」における、世界共通の長期目標「産業革命前からの地球の平均気温上昇を2℃より十分下方に抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追求する」こと、また国が地球温暖化対策計画に掲げる「温室効果ガス排出量を2030年度において、2013年度比26.0%減（2005年度比25.4%減）の水準にする」ことを目指し、武蔵野市が低炭素モデル地域となるよう、環境にやさしい行動を働きかけていく。	今の市の温暖化対策計画を見直さないとモデルにはなりませんが、その用意はある？ 「環境にやさしい行動を働きかけていく」からイメージされる自発的な対策の奨励では、温暖化は止められません。温暖化を止めるために必要なGOALから中間地点の削減目標をバックキャストし、その達成に必要な対策を実施していく意思を表明する文章も入れておく必要。 ・「2013年比26%削減（1990年比18%削減）」という目標は「パリ協定」の要請に沿う水準ではありませんので、ここにもとづく取り組みは「モデル」になり得ません。 EUの目標値＝1990年比40%削減と比べて遙かに低い上、過去に国際公約した日本の削減目標を大幅に引き下げる内容だったため国際環境NGO（CAN）から「化石賞」を贈られた不名誉な水準です。 また、アメリカを含む全ての国がパリ協定の削減目標を達成しても2℃未満達成には届かない（約3℃上昇）削減ペースであることや、温暖化の加速により2040年代には1.5℃まで達してしまう可能性が危惧されていること等から、削減目標を上方修正する国際交渉（対話）が続けられています。 ・「2050年までに80%削減」という、現在も維持されている日本の長期目標からすると、2031年以降の残り20年間の削減必要量は2013年比54%、2030年比で73%にもなります。知らなかったとは言え昭和～平成にかけてCO2を大量に出し続けてきた今の大人の世代の削減量が26%で、次の世代の削減負担がその2倍～3倍という想定は、将来の技術進歩や再エネ費用削減などを一定アテにできるとしても、エコプラザの理念の「子ども・未来」「大人が責任をもつ」と、相容れません。 ・京都市や横浜市では、「2050年までにCO2排出量を実質ゼロ」を目指す独自の取り組みを進めています。対策先進国では、ガソリン車の販売禁止、太陽光パネル設置義務付け等、啓発や誘導をこえて直接規制が発動されつつあります。 ここで「低炭素モデルを目指す」と宣言することは、市の温暖化対策「実行計画」「地域プラン」をそのレベル、方向へ向けて抜本改訂していく、市民の理解を深め対策受容性を高めるための啓発活動を強化していく、ということになりますが、その覚悟はあると理解して良いのでしょうか？	意見
5	(4) 生活・地域との接点 一人一人が地球温暖化をはじめとする様々な環境問題の存在と本質を知る必要がある。そのためにはまず、日々の暮らし・地域と環境の接点・つながりなどを知ることから始めて、それが共感や行動へとつながるよう促していく。	「生活・地域とのつながり」としてはどうか。 「日々の暮らし」を「日々の暮らし、地域での暮らし」とする。	修正 修正
5	エコプラザ（仮称）の理念（図）	図を最初に持ってきて、その後に文章で説明した方が、頭に入ってきやすいのではないか。	修正

頁	本文（前回の案）	意見	対応
6	<p>3. エコプラザ（仮称）機能と活動の場 エコプラザ（仮称）の理念を実行するため、機能として「情報・伝達」、「学ぶ・学び合う」、「つなぐ」「育てる・育む・共感する」、「支える」があり、これらの機能を展開する活動の場（ゾーン）がある。</p>	<p>「エコプラザの機能」を実現する「活動の場」は緑町3-1-5に限定されないはずで す。 ・小中学校への出前授業や小中学校区の地区イベントへの出展、市街や市外での フィールドワークなど、成果や目的に照らして適切な場所で実施する、ということ が大前提としてあって、そのうち「施設としてのエコプラザ」ではこんな機能をこ のゾーンで、ということが分かるような構成に。 学習会にしてもイベントにしても、市の東部や西部の住民からすると市役所は遠い 場所。最低でも吉祥寺、三鷹、武蔵境のJR駅3エリア、できれば小学校区、中学 校区を啓発事業実施の基礎エリアと考えた方が良いと思われます。『地球が壊れる 前に』上映会の参加申込み者の声でも「近くだから．．．」「電車に乗ってまで は．．．」という反応が明らかにありました。 ・エコプラザ周辺エリアでいろいろな啓発事業モデルを試行し、それを市内全域に 拡げていく、という取り組み方は実践的だと思います。</p> <p>「育む」と「育てる」の違いは？ 書き分けてあると必ず質問されます。 「自ら学び成長する」ことを支援するのが「育む」で、主に外部からの教育により 能力を高めることが「育てる」「育成」のようなニュアンス？</p> <p>エコプラザだけでは完結しない、地域とつながり水平展開することを強調する。ま た、この記述をどこに置くか検討が必要。</p>	<p>修正</p> <p>修正</p> <p>修正</p>
7	<p>4. エコプラザ（仮称）の機能と空間利用</p>	<p>ここは3と一緒に良いのでは？3で書いたとおり、少なくとも市民会議の議論と しては、啓発機能を実施する場は緑町に限定せず、市内外のフィールドだったり、 出前だったりという意見が出ていたと思いますし、「機能重視」の視点からすれ ば、最も成果が得られる場所をつと選定して実施、という考え方が妥当と思われま す。 そういう考え方を前提とした上で、施設としてのエコプラザではどんな機能、どん な啓発が、どのスペースで考えられるかを「空間利用」として紹介しておく形 で．．．。「エコプラザ」には、「機能としてのエコプラザ」と「物理的な施設と してのエコプラザ」があるというイメージ。 あるいは、最適な場所で実施する「機能としてのエコプラザ」の活動の場につい てが「3」で、施設としてのエコプラザの空間利用が「4」とか。</p>	<p>修正</p>
7	<p>1階平面図</p>	<p>図面の文字の重なりが見にくいので、文字の下は地色を白にしてください。</p>	<p>修正</p>
7	<p>(2) エコプラザ（仮称）2階の機能と空間利用 ・アーカイブ・市環境啓発ゾーン（旧事務所棟2階）はアーカイブコーナーと 市環境啓発部門で構成する。</p>	<p>「市環境啓発部門」とは、当面、エコプラザの運営管理を担う部署、という意味で しょうか？</p>	<p>意見</p>
7	<p>2階平面図</p>	<p>図面の文字の重なりが見にくいので、文字の下は地色を白にしてください。</p> <p>「2050年に負の遺産とならないカーボンマイナス住宅モデルハウス」は、アイデア としてはどこに作る想定？旧事務所等の中？（太陽光発電が．．．）平屋なら屋 上でも耐震性大丈夫？1番目立つのは広場かと思いますが．．．。これも緑町ではな く、空き家を活用して市内各所に作るとか、市の他部門の施設で各所に実現する、 などのアイデア検討もアリかもしれません。</p>	<p>修正</p> <p>資料に記 載 (GW1)</p>

頁	本文（前回の案）	意見	対応
8	<p>5. エコプラザ（仮称）運営のポイント エコプラザ（仮称）の運営に携わる者には、施設の目的に合った資質が求められる。中でもとくに次の資質は重要である。</p>	<p>「運営のポイント」については議論を整理する必要がある。</p> <p>①②③に書かれているような資質は、エコプラザに限らず公益的サービスの提供者に共通して求められる資質なのでは。（あるいは民間のサービス事業者にも）エコプラザの運営は1人ではなく複数のメンバーからなるチームによって担われると思われませんが、ここで殊更に運営者1人1人のパーソナルな資質、特にコミュニケーション能力だけをここまで強調して取り上げることは、運営が個人（顔役の個人的資質）に依存してしまうような印象を与えかねないので、適切では無いと考えます。</p> <p>①②③も一定求められると思いますしそのレベルが高いにこしたことはありませんが、それ以上に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い環境問題の個々の分野についての基礎知識と重要分野についての一定の専門的知見がある ・前例にとらわれない発想や企画力、関係者を巻き込んでそれを実現していく提案力、調整力 ・科学的知見や、他地域の取り組み事例、市内各地区・各方面の諸事情、等に関する情報収集力、などの能力が、エコプラザの成果拡大に直結すると思われる。 <p>コミュニケーション能力も含め、チーム全体としての力量を構築、向上させていく上ではリーダーの役割が非常に大きい、という意味で、「最後は人」だとは思いますが。</p> <p>若い人、学生が運営に加わるような要素を加える。地元の大学の活用、カフェの学生運営など。 学生が地域資源を考えたり、そのような取り組みを学校が受け入れる傾向がある。とくに高校生、大学1～2年に期待する。</p>	<p>検討</p> <p>検討</p> <p>修正</p>
	<p>本編全体について</p>	<p>本編に事業評価などについて入れなくてもよいか？</p> <p>本編にも「事業の評価」を書くべき エコプラザは税金で作る施設なので、当然、成果を市民に報告する義務があると思います。</p> <p>「環境啓発施設」の成果は「どれだけ啓発したか＝啓発効果」ということになりますが、下記の点に留意しつつ、基本は成果志向で運営されることを明言しておくべきかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客観的な評価尺度で測定できる成果と測定できない成果がある。 <p>「CO2を削減する」なら測定の方法がありますが、「自然を大切にす気持ちを育む」は直接的に成果を測定できないので、企画参加人数やアンケートによる意識調査などで代替することになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「機能としてのエコプラザ」の成果評価は市内全域、市民全体（事業者含む）、 <p>「施設としてのエコプラザ」の成果評価では、集客力を示す「来館人数」も成果指標の1つとして含まれると思われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口や土地利用などの条件に近い近隣自治体等との比較による相対評価や、市政アンケートによる経年の意識変化調査、あるいはネットやスマホによる意識調査などの評価方法もあると思います。 	<p>修正</p> <p>修正</p>

頁	本文（前回の案）	意見	対応
		・「ポートフォリオ」に関する記述は、抽象的で意味がよく分かりません。単一でなく様々な視点から総合的に評価する、ということ？投資のリスク分散しか思い浮かばない人が多いのでは？敢えてこの用語を使うほど、今までにない斬新な概念のようにも思えないのですが、...	

2 検討のあゆみ編

※本編と重複する箇所は省略

頁	本文（前回の案）	意見	対応
2	(1) エコプラザ（仮称）とは 地球温暖化を背景に、市民参加型の環境啓発施設として、日常生活と多様な環境問題との接点やつながり・関係性などをわかりやすく説明し、市民一人一人の環境にやさしい行動を促す施設である。	「地球温暖化を背景に」を枕詞のように軽々しく使う必要は無いのでは？とりあえず入れたっばい。 他の全ての環境問題で温暖化対策の視点からチェックを入れ反映させる、という意味を含むなら可。 旧クリーンセンター跡地にあること、新クリーンセンターと一体であることを示す。	修正 修正
3	エコプラザ（仮称）では、これらSDGsの実現を念頭に置いて事業を実施する。例えば再生エネルギーの普及、省エネルギー化、地球温暖化対策、循環型社会の構築、生物多様性の保全等の分野の活動を通して、環境にやさしい魅力的な地域づくりを目指す。	「再生エネルギー」→「再生可能エネルギー」またはゴミゼロとの整合を意識するなら「自然エネルギー」	修正
		SDGsに目標としての深さがあることを表現する。→つながり、学び合い、しなやかさ。	修正
		SDGs = 国連で採択された「持続可能な開発目標」の17のゴールのうち環境に関する12項目を含め、環境分野全般を視野に入れて啓発事業を実施します。日々のくらしや地域での活動の中で環境問題との接点・つながりを知ることから始めて、地球温暖化をはじめとする様々な環境問題の本質を知り、行動変化へとつながるよう促していきます。 (1) 低炭素モデルの実現 ← 【基本的な方向性】から (2) 地域力の向上 ← 同上 (3) まちづくりとの連携 ← 同上 (4) ゼロウェイスト ← 同上 → 【基本的な方向性】はなくす	検討
(説明) ○「目指す」と見出しにありますが、原文では解決を目指す環境問題の分野が書いてあるだけ。 「誰一人...」「持続可能性」「多様性」「包摂性」...「環境にやさしい魅力的な地域づくり」...抽象的すぎる気が。 「目指すもの」は、（これから）実現したいこと、達成目標が一定具体的に書かれている方が良いと思います。 ・【基本的な方向性】の(1)(2)(3)の方がより具体的で、「目指す」「目標」という言葉に合っている感。 ・「(4)生活・地域との接点」はエコプラザが目指すことのうち、全体に共通する基盤のレイヤーのように思われますので、1項目とするより見出しに続けた全体共通事項の説明文とした方が良いかと。 レイアウト的にも項目羅列より締まる感。 ・【基礎にある考え方】「(5)ゼロウェイスト」も「目指すもの」に入れられる内容かと。 ・市の『環境基本計画』の重点項目1：環境情報を分かりやすく提供、も入っていても良いかも。			

頁	本文（前回の案）	意見	対応
3	<p><武蔵野市の環境の歴史> 武蔵野市の歴史においては、環境に対する代表的な取り組みとして、緑の保全・育成と、ごみ減量・リサイクルが重要である。 緑については、昭和48年に「武蔵野市民緑の憲章」を定め、「ふるき武蔵野の緑をまもり、今日ある緑をそだて、新しい武蔵野の緑をつくりだしていく」決意を示した。この憲章の意志を受け継ぎ、計画的に緑の保全・育成の取り組みが行われている。 ごみ減量・リサイクルについては、昭和45年に三鷹市内の焼却場での武蔵野市・三鷹市のごみの共同処理が問題となり、地域住民による武蔵野市のごみ搬入阻止に至った。この状況を受けて、武蔵野市は昭和53年1月に古紙、9月に空き缶類・空きびん類の分別を開始した。 同時に、市内への焼却場設置が必要となり、徹底した市民参加による議論の結果、昭和59年に旧武蔵野クリーンセンターが設置された。旧武蔵野クリーンセンターの更新を迎え、改めて市民参加によって市内への焼却場設置を議論し、その結果現在の新武蔵野クリーンセンターが建設された。旧武蔵野クリーンセンターは、エコプラザ（仮称）としてその一部を残すことになる。</p>	<p>用語説明は、全て右端に揃える、下にまとめるなどルール化して表示してはどうか。本文の文章が読みづらく、頭に入っていないのではないかと。</p>	修正
3	<p><武蔵野市の市民参加> 昭和46年策定の「武蔵野市長期計画（第一次）」において行われた、市民参加による計画策定＝武蔵野市方式以来、対話と交流を通して各種計画が策定され、施策が実施されてきた。この考え方は、新・旧武蔵野クリーンセンター建設においても同様であり、今後も変わらない方向性である。</p>	<p>用語説明は、全て右端に揃える、下にまとめるなどルール化して表示してはどうか。本文の文章が読みづらく、頭に入っていないのではないかと。</p>	修正
4	<p><メタボリズム> メタボリズムとは、もともと新陳代謝を意味する用語であるが、転じて人口の増大と技術の発展に呼応して更新される都市の成長を説く建築運動を意味するようになった。</p>	<p>人口増大、発展、成長 などの言葉はこれからの時代と逆方向、という意見が出ていたと思いますが。</p>	削除
		<p>古い説明内容なので、あえて記載しない。 用語説明は、全て右端に揃える、下にまとめるなどルール化して表示してはどうか。本文の文章が読みづらく、頭に入っていないのではないかと。</p>	削除
6	<p>3 エコプラザ（仮称）のもつ機能 ア 取り扱う環境分野 エコプラザ（仮称）は、地球温暖化、ごみ・リサイクル、緑、水循環、資源循環・エネルギー、生物多様性など、環境全般を視野に入れて事業を実施する場とする。</p>	<p>「ごみ・リサイクル」は、クリーンセンターと一体的に発展してきたこと、環境とのつながりがある、という要素を加える。</p>	修正
6	<p>イ 利用対象者 エコプラザ（仮称）が想定する利用者は、すべての個人、NPO等の団体、事業者であり、あらゆる年齢層を対象とする。 とくに子ども同士、親子連れなど、子どもが来やすい場、何度も来たくなる場にしていく。また、環境に高い関心のある人だけではなく、環境について行動、学習したいがきっかけがつかめない人、環境への関心がまだ低い人などが、気軽に来ることができる場にする。</p>	<p>アウトリーチによる利用者の要素を追加する。</p>	修正

頁	本文（前回の案）	意見	対応
6	<p>(1) 情報収集・情報伝達 ① 専門的・客観的な情報 個人レベルでは、大量に流通する環境情報の中から、最新で客観性のある情報を見分けることは難しい。エコプラザ（仮称）は、最新の専門的で正確な情報が得られる場にする。</p>	<p>・どちらかという、エコプラザ自身の情報伝達力を高めていくというよりも、既に高い情報伝達力を持っている事業者や団体との連携を構築していく方法の方が現実的かと。 … 生協など会員制事業者や商店街、小売業者から家庭へ、事業者から社員へ、大学から学生へ、など、環境問題への関心が高く情報伝達力をもっている事業者、団体とのコレクティブな連携を開拓していく余地は大 (事例) 温暖化ドキュメンタリー番組『地球が壊れる前に』上映会 ・NPOの情報収集力・企画力 … FOX子会社と自主上映交渉、実現 ・生協の情報伝達力 … パルシステム三鷹センターが配送エリア組合員16,000世帯にカラーチラシ配布 → 参加申し込み220名超</p>	修正
6	<p>③ 情報の伝達 一個人、一団体では、外部に情報を伝える手段やノウハウがまだ少ない。エコプラザ（仮称）自体が効果的な情報伝達を行うとともに、情報の伝え方について相談でき、ノウハウが得られる場にする。</p>	<p>情報の見える化、一元化、体系化の要素も追加する、あるいは項目を追加する。</p>	修正
7	<p>④ 探究・創造 一人一人が環境問題を考え、その答えだけを求めるのではなく、考える過程を楽しむ探究心を育てていく。エコプラザ（仮称）は、このような探究の場である。 また、環境に対する柔軟な考え方は、新しい価値を生み出すことができる。例えば、古い粗大ごみは、その古さを活かし、用途を変えて、新しい価値を持つ品物となり得る。生ごみから作った堆肥は、作物に付加価値を与えることができ。エコプラザ（仮称）は、このような新しい価値を生み出す場にする。</p>	<p>モノづくりの意味での創造の位置づけは、この位置でよいか。</p>	修正
7	<p><ESD(Education for Sustainable Development)> ESDとは、「一人一人が世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のこと」をいいます。 具体的には、単なる知識の習得や活動の実践にとどまらず、日々の取組の中に、持続可能な社会の構築に向けた概念を取り入れ、問題解決に必要な能力・態度を身に付けるための工夫を継続していくことが求められています。 A. 日々の取組をESDの視点でとらえる（持続可能な社会で大切なことを理解する） 【取組の6つの視点】 課題の構造に関する概念：①多様性、②相互性、③有限性 課題解決に向けた行動が備えるべき要素に関する概念：④公平性、⑤連携性、⑥責任性 B. 日々の取組をESDの視点で工夫する（問題解決に必要な能力・態度を身に付ける） 【取組の7つの工夫】 ①進んで参加する態度、②つながりを尊重する態度、③他者と協力する態度、④コミュニケーションを行う力、⑤多面的、⑥総合的に考える力、⑦未来像を予測して計画を立てる力・批判的に考える力</p>	<p>用語説明は、全て右端に揃える、下にまとめるなどルール化して表示してはどうか。本文の文章が読みづらく、頭に入っていないのではないかと。</p>	修正

頁	本文（前回の案）	意見	対応
8	(4) 育てる ① 環境への興味を育てる 環境にやさしい地域をつくっていくためには、まず一人一人が環境に興味をもつことが第一歩になる。そして、その第一歩は子どものときに踏み出してほしい。エコプラザ（仮称）は、お腹に子どもがいる母親、小さな親子連れ、子ども同士などが、最初は環境に関心がなくても来たくなる、気軽に来ることができる、集まることができる場にする。そして小さな環境への興味をより大きく、幅広く育てていく場にする。	「育てる」は、「育む、育てる」に言い換える。	修正
		「興味」は、「興味、関心」に言い換える。	修正
8	② 活動を育てる 一人一人が環境問題を知り、知識を深めていくことは大変重要であるが、それを具体的な活動につなげていくことも重要である。活動というかたちにするためには、環境に関する知識とともに、活動の立ち上げ、継続に関するノウハウが必要になる。エコプラザ（仮称）は、地域における環境活動の担い手を育てる場にする。	「育てる」は、「育む・育てる」に言い換える。	修正
11	(3) 旧事務所棟 ① 情報を得る・発信する	「マニアックな写真集」は誤解を受ける表現なので、他の語に言い換える（新たにインスピレーションを引き出す写真集など）。	修正
13	オ プログラムと利用空間、運営主体者イメージ エコプラザ（仮称）のプログラムと利用空間、運営主体者イメージの検討については、空間利用と同様に市民会議において各委員が3つのグループに分かれ、グループワーク形式でアイデアを出し合った。空間利用のグループワークでの議論を踏まえ、「環境テーマ」、「伝えたいこと（例）」、「伝えるためのプログラム（例）」、「主な利用空間」、「顔が見える運営に必要な要素（例）」の項目から具体的なプログラム、利用空間、運営主体者などの関係性について議論を行った。結論を示すのではなく、各グループで出された意見を以下に示すかたちとする。	字体を統一する。	修正
18	表	事業系業務は、「市＋利用者から顔が見える運営者」である。	修正
19	(3) コミュニケーション エコプラザ（仮称）の運営においては、市民、団体、事業者等との積極的なコミュニケーションが必要である。施設の開設までの期間もコミュニケーションに努め、その存在を広く知ってもらう必要がある。そのために、次のような事業が考えられる。	(3) コミュニケーションは、内容が「施設の開設までの期間」に関することだけなら、「エコプラザ開設に向けて」など、別項目の方が良いのでは？	修正

3 検討のまとめ（案）全体について

頁	本文（前回の案）	意見	対応
		「～する」「～目指す」という言い切り調は語感が強く、市民からすると上から目線のように感じられたり、市との距離感を感じてしまいそうです。委員会等の報告書はこういうものなのかもしれませんが、真っ先には市長や市議会議員が読まれるとしても、その後、少なくとも薄手の「本編(要約版)」は多くの市民に読んでもらい、エコプラザについての理解を深めてもらうために広く配布されることが想定されているとすると、「少しでも市民に分かりやすく」「身近に感じてもらうこと」も重視したソフトな文体にした方が良いと思います。「創」…既にあるものにとらわれず、柔軟に...	検討

頁	本文（前回の案）	意見	対応
		<p>この間、市の環境行政の中で「啓発」「啓発施設」だけが大きく取り上げられすぎ。</p> <p>環境啓発施設に関する検討市民会議なので専ら啓発に関する議論であったことは当然ですが、</p> <p>本来は「啓発」は行政目的の実現手段の1つの選択肢。補助金や税優遇による誘導、義務化や禁止などの規制、等の選択肢もある中で、行政目的、目標に照らして必要、有効な手段が判断されるプロセスが、エコプラザの外、上位の所にある、という認識も共有しておきたいところ。</p> <p>そうでないと、将来、何でも啓発、何でもエコプラザに丸投げされてしまう恐れが無きにしても. . .。</p>	意見
		<p>武蔵野市周辺の自治体がそれぞれ環境啓発機能を自前でフル装備、自己完結を目指すよりも、啓発設備機器の共有・持ち回りや、専門性の高い人材の確保・育成、NPO等市民団体の運営管理支援機能など、広域連携した方が良いかもしれない領域もあるのでは？</p>	検討
		<p>各委員の出身領域、経験が異なるので基本的な価値観、ウェイトの置き所にも違いがあります。私自身は、ここ10年ほど、気候変動問題の解決に向けた様々な啓発活動や市民共同発電所づくりなど地域再エネ事業を、地域の現場の最前線で、たぶん東京では1番たくさん、やってきました（脱原発ではもっとやっている人が大勢いますが）。この問題では、「CO2削減」という客観的な指標で測定可能な「成果」が求められています。そういう立場から今回の「まとめ(案)」を見ますと、全体として、抽象的、理想論的、あるべき論的な記述が多く、「それを現場で実現するためには何をどうすれば良いのか」という具体的、実践的なところへは踏み込めていない感じがしています。</p> <p>「そこを実現していくのがエコプラザ」、という事なのかと思いますので、運営事業者の選定に当たっては、様々な団体や行政との連携をうまく構築し、成果を出せる啓発事業を革新的に構築していく力があるところが選定されることを期待しております。</p>	意見
		<p>用語説明は、全て右端に揃える、下にまとめるなどルール化して表示してはどうか。</p> <p>本文の文章が読みづらく、頭に入っていないのではないか。</p>	修正
		<p>文章について。もう少し、短く、わかりやすくできないか考えてみる。</p>	修正